

10年の歴史を積み重ねた「互恵のためのアジア民衆基金」は 同じアジアに住む人々の 連帯をさらに深めて 未来に向かっていきます



互恵のためのアジア民衆基金社員団体 (2019年10月5日現在)

グリーンコープ生活協同組合連合会 グリーンコープ 14生協	フィリピン	ATPI (オルター・トレード・フィリピン社) ATFI (オルター・トレード財団)
生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 パルシステム生活協同組合連合会	インドネシア	CORDEV (農村発展のための協同組合) AVDFI (アララ-深谷開発財団)
オイシックス・ラ・大地株式会社 NPO法人APLA	東ティモール	ATECCO (オルター・トレード社員信用組合) ATPF (食料主権のためのオルター・トレード財団)
株式会社オルター・トレード・ジャパン (ATJ) NPO法人日本消費者連盟	インドネシア	ATINA (株式会社オルター・トレード・インドネシア) YPMD (パプア農村コミュニティ発展財団)
NPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会 生活協同組合コープクルコ	インドネシア	ATT (オルター・トレード・東ティモール社) KSI (「泉湧き出でて大河となる」研究所)
韓国	パキスタン	AKBG (アル・カイル ビジネスグループ)
デュレ生活協同組合連合会 ハンサム生活協同組合連合会	パレスチナ	PARC (パレスチナ農業復興委員会) UAWC (パレスチナ農業開発委員会)
マレーシア	PACOS (パコス財団)	
ネパール	MANUSHI (マヌシ)	

「子どもたちの未来のために」
No.136
「グリーンコープでんき」について

「みどりの地球をみどりのまま、子どもたちに手渡したい」という思いはグリーンコープにずっと私たちの願いです。資源の少ない日本では、世界で進む再生可能エネルギーへの転換からかけ離れ、旧態依然としてのエネルギー政策が続いています。

2011年東京電力福島第一原発事故後、全国50以上の原発がすべて停止しました。そして、何年もの間、原発ゼロの社会となることができました。「資源のない日本には絶対に安全でしかも、コストが安い原発が必要」というのは嘘でした。

さらに、原子力発電に伴って発生する「高レベル放射性廃棄物」の処分について、日本は現時点では未決定のまま原発再稼動に踏み切りました。この問題は、数千年・数万年にわたって、次世代に負担を押しつけていくこととなります。

安心できるエネルギーを選択し、豊かな未来を子ども世代・孫世代に残していくためにも、グリーンコープでんきを伝え、仲間を増やし、原発のない社会を実現したいです。

グリーンコープ共同組織委員会

グリーンコープ・グリーン電力出資金
11,706人
1,118,750,000円
(2019年10月28日現在)

グリーン未来ソーラー売電量
41,569kWh
定格出力376kW(110世帯相当)

若宮物流センター太陽光発電所売電量
2,956kWh
定格出力47kW(14世帯相当)

広島物流センター太陽光発電所売電量
4,817kWh
定格出力47kW(14世帯相当)

グリーンコープやまぐち生協西部地域本部太陽光発電所売電量
4,946kWh
定格出力54kW(16世帯相当)

2019年9月の売電量
神在太陽光発電所売電量
99,450kWh
定格出力1,057kW(309世帯相当)

平池水上太陽光発電所売電量
145,474kWh
定格出力1,260kW(388世帯相当)

深年太陽光発電所売電量
152,275kWh
定格出力1,550kW(453世帯相当)



10/4 マスコパド糖 製造工場

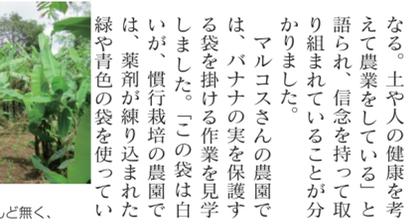
かき混ぜる作業を体験

民衆取引品のマスコパド糖が、サトウキビが運ばれてきてから完成するまでの工程を見学しました。



10/4 マムス・アクロス・フィリピン

アメリカで遺伝子組み換え食品から子どもを守る運動を展開している「マムス・アクロス・アメリカ」創立者のセン・ハニーカットさんの活動を知り、食の安全性に対する不安と子どもの健康問題に危機感を持ったATPIや地域の母親たちは、2017年に「マムス・アクロス・フィリピン」を結成し活動しています。



10/6 カンラオン市のバナナ農園

ネグロスバナナの生産者であるお二人の農園を訪問しました。

エステパンさんの農園では、農業などを使わずにバナナや様々な野菜が育てられていました。「農業を使わないことで経費節約になるし、土も良く育ち、土や人の健康を考えると農業をしよう」と語られ、信念を持って取り組まれていることが分かりました。

マルコスさんの農園では、バナナの実を保護する袋を掛ける作業を見学しました。「この袋は白いが、慣行栽培の農園では、薬剤が練り込まれた緑や青色の袋を使っていることがよくあります。

10/4 マスコパド糖

総会の前日と翌日、参加メンバーは、ATPIから融資を受けている団体や農園を訪問し、交流しました。

10/4 マスコパド糖

サトウキビを搾り、煮詰めて濾したシロップをかき混ぜる作業も体験。温度の高い室内で長時間かけて行う作業は、想像以上に重労働であることを感じました。また、マスコパド糖が人の手による熟練の技で丁寧に作られていることを、自分たちの目で確かめました。

10/4 マムス・アクロス・フィリピン

アメリカで遺伝子組み換え食品から子どもを守る運動を展開している「マムス・アクロス・アメリカ」創立者のセン・ハニーカットさんの活動を知り、食の安全性に対する不安と子どもの健康問題に危機感を持ったATPIや地域の母親たちは、2017年に「マムス・アクロス・フィリピン」を結成し活動しています。

10/6 カンラオン市のバナナ農園

ネグロスバナナの生産者であるお二人の農園を訪問しました。

エステパンさんの農園では、農業などを使わずにバナナや様々な野菜が育てられていました。「農業を使わないことで経費節約になるし、土も良く育ち、土や人の健康を考えると農業をしよう」と語られ、信念を持って取り組まれていることが分かりました。

10/6 カンラオン市のバナナ農園

ネグロスバナナの生産者であるお二人の農園を訪問しました。

エステパンさんの農園では、農業などを使わずにバナナや様々な野菜が育てられていました。「農業を使わないことで経費節約になるし、土も良く育ち、土や人の健康を考えると農業をしよう」と語られ、信念を持って取り組まれていることが分かりました。

10/6 カンラオン市のバナナ農園

ネグロスバナナの生産者であるお二人の農園を訪問しました。

エステパンさんの農園では、農業などを使わずにバナナや様々な野菜が育てられていました。「農業を使わないことで経費節約になるし、土も良く育ち、土や人の健康を考えると農業をしよう」と語られ、信念を持って取り組まれていることが分かりました。

総会の冒頭で、ATPIの藤田和芳さん(オアシックス・ラ・大地)代表取締役会長が、「世界では、紛争やテロなど激しい戦況で、多くの血が流れています。パレスチナやインドネシア、パプア州でも、自由と独立を求める闘いが続いているという報告があります。一方、アジア各地で大地震や津波、洪水など多くの自然災害が起きました。人類がおこり高ぶ

総会に先立ち、社員団体から活動のようすが報告されました。今回の開催地であるフィリピン、ATPI会長のノルマ・ムガルさんが歓迎の挨拶として「本総会は、10年間の連帯の物語です。実績・課題・方向性が見えることで新たな希望とより深い関係が生まれています。コストをしっかりと考えて実効性のある仕組みをつくることで、困難な道でも私たちは歩み続けることができます」と述べました。

総会に参加した組合員

ATPIが融資した社員団体からは、生産性を拡大するためのプロジェクトや設備投資などに資金を運用したことについて報告がありました。ATPIは、バナナを運ぶためのトラックの増台、パッキングセンターの整備、冷蔵庫の設置などについて報告。ATPIからは、若い世代が農業の素晴らしさを知ること、安全な食の大切さを伝えること、そして仕事を保持しない母親たちが収入を得るために、野菜の宅配とお米の供給事業をすすめているという報告がありました。従業員への小規模融資事業を行っているATPIの団体からは「子どもたちが大学に通えるようになった」「手続きが

総会に参加した組合員

ATPIが融資した社員団体からは、生産性を拡大するためのプロジェクトや設備投資などに資金を運用したことについて報告がありました。ATPIは、バナナを運ぶためのトラックの増台、パッキングセンターの整備、冷蔵庫の設置などについて報告。ATPIからは、若い世代が農業の素晴らしさを知ること、安全な食の大切さを伝えること、そして仕事を保持しない母親たちが収入を得るために、野菜の宅配とお米の供給事業をすすめているという報告がありました。従業員への小規模融資事業を行っているATPIの団体からは「子どもたちが大学に通えるようになった」「手続きが

総会に参加した組合員

ATPIが融資した社員団体からは、生産性を拡大するためのプロジェクトや設備投資などに資金を運用したことについて報告がありました。ATPIは、バナナを運ぶためのトラックの増台、パッキングセンターの整備、冷蔵庫の設置などについて報告。ATPIからは、若い世代が農業の素晴らしさを知ること、安全な食の大切さを伝えること、そして仕事を保持しない母親たちが収入を得るために、野菜の宅配とお米の供給事業をすすめているという報告がありました。従業員への小規模融資事業を行っているATPIの団体からは「子どもたちが大学に通えるようになった」「手続きが

総会に参加した組合員

ATPIが融資した社員団体からは、生産性を拡大するためのプロジェクトや設備投資などに資金を運用したことについて報告がありました。ATPIは、バナナを運ぶためのトラックの増台、パッキングセンターの整備、冷蔵庫の設置などについて報告。ATPIからは、若い世代が農業の素晴らしさを知ること、安全な食の大切さを伝えること、そして仕事を保持しない母親たちが収入を得るために、野菜の宅配とお米の供給事業をすすめているという報告がありました。従業員への小規模融資事業を行っているATPIの団体からは「子どもたちが大学に通えるようになった」「手続きが

10年を経て着実に歩みを進めるATPI

総会の冒頭で、ATPIの藤田和芳さん(オアシックス・ラ・大地)代表取締役会長が、「世界では、紛争やテロなど激しい戦況で、多くの血が流れています。パレスチナやインドネシア、パプア州でも、自由と独立を求める闘いが続いているという報告があります。一方、アジア各地で大地震や津波、洪水など多くの自然災害が起きました。人類がおこり高ぶ

10年を経て着実に歩みを進めるATPI

総会の冒頭で、ATPIの藤田和芳さん(オアシックス・ラ・大地)代表取締役会長が、「世界では、紛争やテロなど激しい戦況で、多くの血が流れています。パレスチナやインドネシア、パプア州でも、自由と独立を求める闘いが続いているという報告があります。一方、アジア各地で大地震や津波、洪水など多くの自然災害が起きました。人類がおこり高ぶ

10年を経て着実に歩みを進めるATPI

総会の冒頭で、ATPIの藤田和芳さん(オアシックス・ラ・大地)代表取締役会長が、「世界では、紛争やテロなど激しい戦況で、多くの血が流れています。パレスチナやインドネシア、パプア州でも、自由と独立を求める闘いが続いているという報告があります。一方、アジア各地で大地震や津波、洪水など多くの自然災害が起きました。人類がおこり高ぶ

10年を経て着実に歩みを進めるATPI

総会の冒頭で、ATPIの藤田和芳さん(オアシックス・ラ・大地)代表取締役会長が、「世界では、紛争やテロなど激しい戦況で、多くの血が流れています。パレスチナやインドネシア、パプア州でも、自由と独立を求める闘いが続いているという報告があります。一方、アジア各地で大地震や津波、洪水など多くの自然災害が起きました。人類がおこり高ぶ

10月に連続して発生した地震で被害を受けたネグロスバナナ産地へAPLAをととして緊急支援

「農」を軸に地域の自立をめざすアジアの人々の出会い、経験を分かち合うことを目的に活動するNPO法人

フィリピン・ミンダナオ島で、マグニチュード6.3~6.6の地震が10月に連続して3回発生し、バナナの生産者や出荷団体が甚大な被害を受けました。APLAでは早速緊急支援を開始しています。今回、APLAが管理する緊急災害準備金の中から、3,306,000円を届けることになりました。

<緊急災害準備金>

2013年に地震と台風の被害を受けたフィリピンへの支援のために、グリーンコープの組合員や他団体から寄せられたカンパ金のうち、残金を「今後フィリピンで発生しうる自然災害への支援金として活用する」目的でAPLAが管理しています。2016年にミンダナオ島で大規模な干ばつが発生した時もバナナ産地の復興支援金として活用されました。

10月に連続して発生した地震で被害を受けたネグロスバナナ産地へAPLAをととして緊急支援

「農」を軸に地域の自立をめざすアジアの人々の出会い、経験を分かち合うことを目的に活動するNPO法人

フィリピン・ミンダナオ島で、マグニチュード6.3~6.6の地震が10月に連続して3回発生し、バナナの生産者や出荷団体が甚大な被害を受けました。APLAでは早速緊急支援を開始しています。今回、APLAが管理する緊急災害準備金の中から、3,306,000円を届けることになりました。

<緊急災害準備金>

2013年に地震と台風の被害を受けたフィリピンへの支援のために、グリーンコープの組合員や他団体から寄せられたカンパ金のうち、残金を「今後フィリピンで発生しうる自然災害への支援金として活用する」目的でAPLAが管理しています。2016年にミンダナオ島で大規模な干ばつが発生した時もバナナ産地の復興支援金として活用されました。

ネグロスバナナやエコシュリンプなどの利用が、アジアの仲間を応援することにつながります

※1 一般社団法人 互恵のためのアジア民衆基金 (APF) とは

2009年10月、グリーンコープをはじめ、日本と韓国の生協など8団体がかかりとなり、設立されました。南(開発途上国)の人々の経済的な自立に必要な資金を、北(先進国)である日本と韓国の生協や産直団体が基金に寄付し、APFが低利で必要とする団体や地域社会に融資する制度です。同時に、アジア各地の人々の経験や知恵を共有し、互いに助け合い、教えあひながら連帯をすすめていくための仕組みです。

私たちが、民衆取引品のネグロスバナナやエコシュリンプを購入する際に、本体の価格とは別に拠出する寄付金が、アジアの仲間の自立を応援する基金となります。

例えは、民衆取引品(ネグロス)バナナは、5000円(500g)のエコシュリンプM200gを10円を基金としてお預かりしています。

互恵のためのアジア民衆基金 +5円

産直民衆取引(ネグロス)バナナ 500g

エコシュリンプM 200g (11~14尾)

互恵のためのアジア民衆基金 +10円